

「加賀家文書」の調査研究から～その 35 史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録から十二～



野付半島での農耕の記録Ⅱ

伝蔵は、今の秋田県八峰町八森の出身です。彼の自伝的な文書「安政四巳年ニシヘツ川一件ニ付子モロ御会処より御呼出ニ相成候処御尋ニ付申上候 伝蔵 巳正月」によると、文政元年(1818)にクスリ場所(釧路)へ入り、飯炊き方をいっつけられています。文化元年(1804)生れなので、14歳で蝦夷地に渡ったようです。誕生から蝦夷地に渡るまでの詳しいことは、判っていませんが、年の離れている兄の鉄蔵が、子モロ(根室)で通辞(アイヌ語通訳)をしていたので、隠居中の父、初代徳兵衛の教えを受け、農作業や蝦夷地での生活に役立つことなどを身につけていたものと思われる。

クスリ場所では、会所元で見習いとして働きながら、会所詰のアイヌのメンカクシ・ムンケ、等と交わる中で、アイヌ語を身につけていったようです。さらに、蔵廻り、帳場手伝いなどの修行をし、センハウシ(厚岸湾に面した漁場)での番家守を務め、シャクヘツ(尺別)では止宿守を務めました。修行を積み、現場で実績を上げるまでに、9カ年の年数を要し、支配人に認められて会所へ引き上げられ、仮帳役を務めるまでになりました。この仮帳役時代に書いたり、書き写したりした文書や絵図も「加賀家文書」として残されています。

さて、「加賀家文書」として残された野付半島での農耕の記録を「大宝恵」(おぼえ)から見ると、「ノツケ領之内ヲン子ニクル領地」(現、野付半島オンニクル)では、東西およそ40町程(1町は、109メートル)南北およそ10町程もあるが、この内、畑に出来る所が3箇所あります。

大地 130間位に 70間位(1間は、1.8メートル)

中同 120間位に 5、60間

下同 50間位に 30間程

井戸水よし 土もよし

「同 ホンニクル領地」(現、野付半島ポンニクル)では、東西およそ20丁程 幅5丁程あるが、畑として可能な地面は、東西130間程、横幅20間ではあるが、土がかなりよくないとあります。

(現在、「ヲン子ニクル」の方は水没していて、確かめようがありませんが、「ホンニクル」の方は、加賀家の先代「加賀康三」氏が、来町した時(昭和51年)に、現地に渡って確かめられました。その時は、野付半島だけではなく、加賀家ゆかりの地を確かめ、感慨深いものがあったようです。)

さて、この畑にどんな作物がまかれ、生育・収穫状況が記録されている。「ヲン子ニクル新畑作物之事」によると、

「大麦 壺斗貳升余 小麦 壺斗五升余 大角豆 五升余 藍 玉 貳貫目余
紅花餅 三百目 麻糸 壺貫五百目余 豆腐豆 五合程 煙草草 三百芽余」を生産し、

野菜類は「大根・かぶ・五升いも・長いも・からし・ゆり・夏な・ねぎ・にら・にんじん・三ツ葉・紫草・南瓜は壹尺貳寸位の丸サより八寸丸サ三十ほど」の収穫があったと記録されています。ほかにも、「なすび・なんばん・西瓜・小豆は花は咲いたが実にならなかった。」「春に戴いた陸稲は、芽が沢山出て、貳尺二三寸位まで成長したが、穂がでず、穂らしい物も見当たらなかった。」と記録されています。(調査員 戸田峯雄)

アイヌ伝説のご紹介！

道内各地には様々なアイヌ伝説があり、今に伝えられています。別海町に係るものもいくつかありますのでご紹介していきたいと思います。

西別岳の死神

摩周湖の隣になだらかな姿をして立っている西別岳は、昔は死人の行くポクナシリ（地獄）だといわれて怖れられ、誰もこの山に近づくものがなかった。

或る日のこと、虹別のトスムシという者がこの近くを歩いていると、向こうから外套を着たアイヌが来たので、変な人間だなと思って近づいてみると、そのアイヌがトスムシに「お前は私と、ポクナシリ（地獄）へ行くんだ」というので、トスムシはびっくりして、「私はまだそんなところへ行くのはいやだ」と一生懸命になって断ったが、「私は死人だが、どうしてもお前を連れて行く理由があるから、黙って私について来い」と命令した。そういわれるとトスムシは何だか夢のような気持ちになって、目を閉じていわれるままに後をついて行くと、あたりは真昼とは思えないほどしんしんとして、まるで闇夜を歩いているような淋しさであった。

やがて山奥深く入ったと思う頃、死人はいきなりトスムシを縛りあげて木の枝につるしあげたと思うと、こつぜんとして姿が見えなくなってしまった。

トスムシはおそれて何とかして縄から逃げようともがき苦しんだが、どうしてもものがれようがなく、そのうち日がくれてしまった。

夜がけるとトスムシがいないというので、部落が大騒ぎになり、大勢でたずねて行くと木の枝につるされているのを発見して、縄を解きやっと助け出すことができたが、それからは一層この山をおそれるようになったという（勝知文 東夷周覧）『アイヌ伝説集』（1971）更科源蔵編著 北書房版より

別海町郷土資料館だより No.114

発行日 平成21年1月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

色々な資料に囲まれて何十年か？立ちました。なかなかまとまりもつかず苦戦していますが、どれも別海町にとっては貴重なものばかりです。ここに詰まっているたくさんの情報を伝えることが、また、今年1年の目標です。(石渡)